

週日の説教

金 大烈 神父 2011年7月8日(金)

《“妬み” この人間の弱さを乗り越えましょう・徹底的な信頼による平和》

今日の第1朗読(創世記 46・1-7、28-30)はヨゼフについて書かれています。今日だけではなく、ここ数日間ヨゼフについて語られています。とにかくヨゼフという人物を考えてみますと、彼が通らなければならなかった波瀾万丈の人生、その中で神様の救いの手、それを聖書はよく語っているのですがちょっと人間的な観点から近づいてみましょう。

このヨゼフはなぜこのような苦しみを受けなければならなかったのでしょうか。聖書でヨゼフの人生を神様が色々と導いて下さる物語が書かれています。このように一人の人を波瀾万丈にさせた、本当に色々なことを乗り越えなければならなかった人生の原因、それはただ一つでした。ある意味で恥ずかしいことかも知れませんがそれはただの「妬み」でした。私たちは自然に「人間は誰でも妬みを持っているでしょう。」と軽く考えるかも知れませんが、この世の中で人間の歴史の中で、悪を作った大きいな原因は「妬み」です。男の人はそんな「妬み」はないでしょうと思うかも知れませんが、いいえもっと汚いかも知れません。

「妬み」はある意味で科学的な発展を助ける原因になったかも知れませんが、しかし全体的に考えてみますと、歴史全体に否定的な影響を与えたことが殆どです。そして「妬み」は人間の人生を辛くさせる力として、一つの悪魔の力として働くと思います。ある意味で私たちは何でもないことに直ぐ「妬み」を感じます。それを簡単に言えば私は足りないものです。私は劣等感を持っていますという心を表すことに過ぎません。カトリック信者であるならば、一番根本的な人間が持っている弱さの中で、そういう面を乗り越えようと意識的に努力しなければいけないと思います。ですから、あの人は本当に穏やかで、あの人は信頼が出来る、彼女には何を言っても安心が出来る。そのような人になるためには先ずこのような基本的な否定的な要素を乗り越えなくてははいけません。

「妬み」は神様が下さった一つの賜物かもしれません。しかしそれを上手く使えない、上手く使おうとする人は少ない。何もないことに「妬み」を感じて、結局自分に帰って来る結果は悲しみ以外には何もありません。このヨゼフの人生を80%変えてしまった原因は何でもないただの「妬み」であることを意識しましょう。

さあ、同じ流れだと思いますが、福音(マタイ 10・16-23)の中でイエス様がこのようにおっしゃっていますね。何か困った時に自分の頭で何を言おうかと心配するな、その時話してくれるのはあなたではなくて、あなたの中で働いている神様の霊、いわゆる聖霊の働きである。結局、徹底的な信頼でしょう。徹底的な信頼がなければこういうことは出来ません。逃げるのに忙しくなると思います。避けようとして忙しくなると思います。「どうすればいいか、どうすればいいか」と。しかし、私たちが信じているイエス様がおっしゃった話、本当にいいことによって、いいことのためにあなたが戸惑う

場合、その時は私が必ずあなたと共にいるという約束です。

昔も今も聖人には共通点があります。それは私たちとちょっと違います。私たちもそのような生き方しなければいけないと思います。

皆様に質問させていただきます。例えば、何か困った事が起きた時に皆様はイエス様ならどうなさるでしょうかと、無意識的な思いが浮かびますか。殆どの方がそうではないと思います。「ああ、困ったなあ。どうすればいいか」と怖さに襲われて色々と焦る心ばかりだと思います。しかし聖人たちが見せて下さったことは、自分の力では何も出来ない、イエス様なら神様ならどういう心をお持ちなのか、どのように考えられるのかと、それを先に思い出すのがある意味で一番相応しい私たちの態度ではないかと思います。例えば、致命的な病気だと言われたとしましょう。その時どうしますか。やはり辛くて怖いですね。しかしそのようなときこそ、イエス様なら聖人ならお母さん(マリア様)ならどのような心でそれを受け入れるだろうかと考えてみましょう。何事があっても、その考えた結果は必ず平和だと私は思います。もちろん絶対にそんな簡単なことではありません。しかしこの様な生き方したいという気持ちで私たちは行かなくてはいけないと思います。

ありがとうございました。